

2024年度

フライブルク大学短期留学プログラム 参加者インタビュー

2025年3月にフライブルク大学（ドイツ）への短期留学プログラムを実施しました。海外留学プログラムは、2020年度以降コロナ禍で中止していましたが、5年ぶりに実施しました。

今回は参加した学生2名に学生編集委員がインタビューしたので紹介させていただきます。

参加者インタビュー

2年次生 島田 飛鳥さん
3年次生 土山 流空さん



インタビューの様子

留学に参加したきっかけ

島田：大学生になり、留学に行きたいと思うようになりました。manabaを介して、情報を入手し、説明会に行きました。

土山：もともと留学に行きたいという思いがあり、1・2年次の時にドイツ語選択であったことからフライブルクへの留学を決めました。島田さんと同様にmanabaを介して、情報を入手し、説明会に参加しました。

プログラム内容について

—留学中の1日のスケジュールを教えてください

島田：留学期間は約1か月で、寮からフライブルク大学まではトラムという路面電車で通学しました。授業は1講義90分で、平日は毎日ありました。午後の授業は受講が必須ではなく、どの講義を受けるかも自由に選択で

CONTENTS

■ イベント

2024年度フライブルク大学短期留学プログラム 参加者インタビュー	1
--------------------------------------	---

■ ご挨拶

新任・昇任のご挨拶	4
-----------	---

■ 特集

「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン」について	8
----------------------------	---

■ お知らせ

お知らせ	6
京薬会だより	6
人事	7
2025年度試験日程について	10
生涯教育センターからのお知らせ	11
Library News	15
2026年度 京都薬科大学入学者選抜概要	16
2026年度 大学院入学選考概要	17

■ コラム

卒業生からのメッセージ	12
私の薦める、私の一冊	13
学生相談室だより	20

■ 報告

2024年度実践薬学コース 実習報告会	10
2025年度入学者選抜結果	12
2024年度 授業評価集計結果の報告	14
令和7年度科学研究費助成事業 採択状況	18
京都市立鏡山小学校で薬物乱用防止教室を開催	19
受賞・掲載	21
京都薬科大学奨学金寄附金芳名録	24

きます。講義の申し込みはインターネットから行いました。1日のスケジュールとしては、朝9時から午前の授業があり、それが終わると昼食です。昼食は学食で食べたり、近くのパン屋で買ったパンを食べていました。午後は授業を受講していましたが、授業がない日はフライブルク内のお店を見たり、あとスーパーに行って夜ご飯を作ったりして自由な時間を過ごしました。

土山：私も留学期間は約1か月で、島田さんとほとんど同じスケジュールでした。夜ご飯は友人と外食に行くことが多かったです。休日には列車に乗ってフランスやイタリアなど他の国を訪れ、短い期間ながらも充実した日々を過ごすことができました。また、フライブルク大学主催の無料の観光プログラムがあり、それに参加したりもしました。学食は日替わりのメニューとビュッフェ形式があり、豪華だと感じました。学食にヴィーガン対応のメニューがあったのが印象的でした。授業の課題はほぼ毎日ありましたが、自分でスケジュールを管理しながら取り組めたので多いとは思いませんでした。



日替わりメニューの一例
(全体的に日本人の好みに合う料理が多いと感じました)



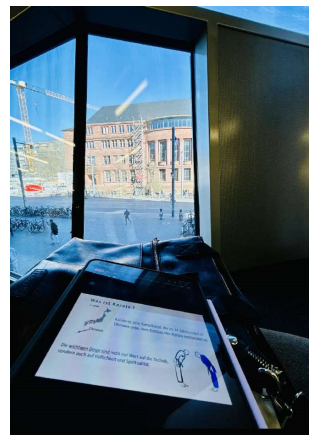
フライブルク大学の食堂

―フライブルク大学での授業内容は？

土山：この留学プログラムでは事前にドイツ語検定を受けて、その結果をもとに自分の語学力に適したクラスに分けられるため、自分のレベルにあった授業を受講できます。また、授業が自分のレベルにあっていないと思えば、クラスの先生に相談して変更することができます。

島田：授業はすべてドイツ語で行われ、午前の授業では主に文法を習い、午後の授業では午前の授業の復習をしたり、語彙を学んだりしました。授業では指名されて答える形式なので積極的に学ぶことができました。また、ペアワークを通して新しい友人を作ることもしました。文法はドイツ語の授業で、ある程度学んでいましたが、発音を練習する機会はあまりなかったのでドイツ語の発音にとっても苦戦しました。また、一番最後の授業では筆記とスピーキングの試験がありました。

土山：私も授業は質疑応答を含めすべてドイツ語で行われる実践形式の授業でした。授業は教科書や辞書を用いて行いました。島田さんと同様にドイツ語の発音は複雑だったので苦労しました。また、先生から質問をされた際に内容は理解できても、うまく答えられないことがありましたが、授業を重ねるうちにそうした場面も次第に少なくなっていました。授業の内容に関する試験が2回あり、その他にもそれぞれ自由にテーマを決めてプレゼンテーションを作成し発表するという授業が特に印象に残っています。私は自分の取り組んでいる空手をテーマにしました。



図書館でプレゼン資料を作成！

―印象に残っていることはありますか？

島田：毎日勉強することに精一杯でしたが、どんどんモチベーションがあがってとにかく充実していました！寮のルームメイトと親しくなる中で、食文化や宗教の違いを通じて自分とは異なる多様な文化に触れることができたことも印象に残っています。

土山：いろいろな国の人が同じように留学にきているのでコミュニケーションをとることができて楽しかったですね。あとフライブルクで開催されていた日本文化のイベントが強く印象に残っています。折り紙やお茶、書道、太鼓など様々な日本文化を紹介しており、日本から離れた地域でも日本の文化に関心を持ち、触れる機会があることに感動しました。

―留学を通して学んだことを教えてください

島田：実際に留学に行ったことで、自分の語学力の足りなさを痛感しましたが、ドイツ語に関しては、日本での学びとは異なり帰国する時には聞き取れるまでに成長したと思います。多様な国や年齢の人が集まるこのフライブルク留学は、文化の違いを肌で感じることができ、とても楽しく良い経験でした。今回の留学は私にとって初めての海外渡航で、初めての一人暮らしとなりましたが、行動力、対応力も身についたと感じています。

土山：日常生活の多くでドイツ語と英語を使うという環境から、積極性が得られたと思います。また、英語の重要性を身にしみて感じましたし、それがさらに英語やドイツ語を学ぶモチベーションにもなりました。日本での普段の授業では、学ぶことができない実践的なドイツ語に触れることができたことや、留学期間中にイタリアやフランスなど多くの国に訪れることができたこともとても良い経験でした。

—今後の進路について考えたことや変化したことはありますか？

土山：この資格までは取りたい、日常生活で英語を話せるようになりたいという明確な目標ができました。

島田：英語だけでなくドイツ語も、もっと勉強したいとモチベーションが上がりました。1ヶ月間フライブルクで生活してみて、とても住みやすく気候も良かったので将来ドイツに住みたいと思いました。

—最後にメッセージをお願いします

島田：私は1人でこのプログラムに申し込みましたが、事前の説明会や顔合わせで同じ学年の人や先輩などと仲良くなり、安心して留学に行くことができました。フライブルクは治安が良く、気候も快適でとても生活しやすい場所です。また、水質も日本に近く、食事や生活の面でも自信をもっておすすめできます。フライブルクはこれから留学する人にとって理想的な環境が整っているため、気軽に挑戦できると思います。

土山：このプロジェクトでは生活面や勉強面でトラブルや悩み事があった時、どれだけ些細なことでも先生が対応してくれたので、心強かったです。島田さんの言うとおり、私もフライブルクは初めての留学にとっても適していると感じました。交通の便が良く、30分ほどでスイスやフランスにアクセスできるのも大きな魅力です。この留学を通じて、これまで経験したことのない様々な体験をすることができました。少しでも気になった方はぜひ留学プログラムをチェックしてみてください。



修了式の様子（島田さん：左）



交通手段として便利なトラム



フライブルクの街並みを一望

＜インタビュー＞

KPU NEWS 学生編集委員

しばさき まい
3年次生 柴崎 真愛

なかざわ あすか
中澤 明日香

新任のご挨拶



医療薬科学系
薬剤学分野

まえだ ひとし
准教授 前田 仁志

2025年4月1日付で、医療薬科学系・薬剤学分野の准教授に着任いたしました。私は、2010年に熊本大学薬学部を卒業後、同大学院薬学研究科に進学し、丸山 徹教授のもと2017年に博士（薬学）の学位を取得しました。2016年から、同大学薬学部薬剤学分野に助教として着任し、その後2018年から1年間、米国イェール大学医学部消化器・肝臓センター（Prof. Iwakiri Lab）に

出向しました。その際、肝疾患の病態生理学に関して研鑽を積むことができ、以降は一貫してアルブミン科学と病態生理学を融合した疾患応答型モデル型医薬品の開発に従事して参りました。

私は、薬物輸送に関わるアルブミンというタンパク質を研究の軸とし、この研究から派生する生命現象を生体模倣することで、新たな薬物送達技術の開発、延いてはその知見を臨床現場に生かすことを使命とし、研究してきました。着任後は、本学の先生方としっかりと連携し、『研究力』の増進に努めるだけでなく、『愛学躬行』のマインドを身につけた学生を輩出することで、本学の発展に貢献したいと考えております。皆さまのご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。



生命薬科学系
細胞生物学分野

いわいさこ ゆうき
助教 祝迫 佑紀

2025年4月1日付で、細胞生物学分野の助教として着任いたしました。私は2021年に本学薬学部を卒業後、本学大学院薬学専攻博士課程に進学し、細胞生物学分野にてカポジ肉腫関連ヘルペスウイルスの複製機構に関する研究に取り組んでまいりました。2025年3月に博士課程を修了し、博士（薬学）の学位を取得いたしました。

このたび、学部生時代からお世話になった本学にて薬学教育に携わる立場となりましたことは、大変光栄であると同時に身の引き締まる思いでございます。大学教員としては未熟者ではございますが、教職員の皆様からご指導を賜りながら教育・研究の両面において精進してまいりたいと存じます。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

基礎科学系
一般教育分野

のづえ さちこ
助教 野末 幸子

2025年4月1日付で基礎科学系一般教育分野の助教に着任しました野末幸子です。「英語」と「人と文化」の科目を担当いたします。

私は社会人経験を経て、2010年に京都大学大学院文学研究科英語学・英米文学専修博士後期課程に入学、2016年3月に同大学院を研究指導認定退学しました。専門分野はアメリカ文学で、19世紀末から20世紀にかけ

て活躍した女性作家イーディス・ウォートンの小説を主な研究対象にしています。

出産・育児のため研究活動を一時休止後、2018年4月より3年間大谷大学文学部任期制助教、2022年4月より3年間三重大学全学共通教育センター特任講師を務め、文系学部だけでなく、医学部を含む理系学部の教養教育にも幅広く取り組んでまいりました。

これまでの研究・教育経験を活かし、本学の掲げる“Science（科学）”、“Art（技術）”、“Humanity（人間性）”のバランスのとれた薬学人材育成に貢献できるよう尽力する所存です。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



統合薬科学研究施設
バイオサイエンス研究センター

なかにし さとし
助手 中西 聡

2025年4月1日付けでバイオサイエンス研究センターの助手に着任いたしました。私は1998年3月に麻布大学獣医学部を卒業後、同年4月に技術職員として京都大学大学院医学研究科附属動物実験施設に就職しました。2002年からスタートした国の事業であるナショナルバイオリソースプロジェクト「ラット」にも参画し系統

維持及び遺伝的品質管理を行ってきました。これらの業務の傍ら芹川忠夫教授の指導の下、ラットの遺伝的プロフィール解析に関する研究にも携わってきました。

2018年にはこれまでの研究成果をまとめて博士（獣医学）の学位を取得しました。バイオサイエンス研究センターから多くの素晴らしい研究成果が生み出されるように施設運営を行っていきたいと思います。京都薬科大学の発展のみならず社会に貢献できるように尽力してまいりたいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



事務局
研究・産学連携推進室

かとう ひろし
室長 加藤 浩

2025年4月1日付で研究・産学連携推進室長に就任いたしました。これまで製薬企業で創薬研究や臨床研究に従事し、その後、私立総合大学で産学連携業務、千里ライフサイエンス振興財団でアカデミアおよび企業の若手研究員の研究力向上に取り組んでまいりました。アカデミアと企業はそれぞれ単独では研究の発展が難しく、互いに連携した活動がますます重要です。本学は多くの優れた人材を輩出し、基礎から臨床にわ

たる研究に注力していると感じております。

趣味としてテニスと卓球を長く続けておりますが、ここ一年は新たに組紐を習い始めました。組み方や糸の色によってさまざまな模様が創出されることが非常に面白いです。今後はストラップなどに使用できる創作組紐を作製したいと思います。

皆様からご指導いただく一方で、私のこれまでの経験や知識を生かし、本学のさらなる発展に貢献できるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

昇任のご挨拶



生命薬科学系
公衆衛生学分野

まつもと たかひろ
准教授 松本 崇宏

2025年4月1日付で、生命薬科学系・公衆衛生学分野の准教授を拝命いたしました。私は2012年に6年制薬学部の第1期生として本学を卒業後、本学大学院薬学専攻博士課程に進学し、吉川雅之先生（現 本学名誉教授）、松田久司先生（現 本学名誉教授）、中村誠宏先生（現 本学教授）のご指導のもと天然物化学に関する研究に従事しました。大学院在学中には半年間、英国University College London School of

PharmacyにてSimon Gibbons 教授のご指導のもと研究を行う機会に恵まれ、2016年に博士（薬学）の学位を取得しました。

2016年に本学公衆衛生学分野の助教として着任し、渡辺徹志先生（現 本学名誉教授）のご指導・ご薫陶を賜り、疾病予防への貢献を目的とした医薬品シード化合物の探索研究を実施してきました。着任後は、独自の有用化合物創出法の開拓に挑戦するとともに、得られた知見を活かした新たな疾病予防法の提案を目指します。

教育・研究を通して、本学の更なる発展に貢献できるよう一意専心努力する所存です。ご指導・ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い致します。

■ 2024年度 卒業証書・学位記（学士）及び学位記（博士）授与式

2024年度卒業証書・学位記（学士）及び学位記（博士）授与式を、2025年3月15日（土）午前10時から創立130周年記念館で挙行了しました。薬学部 薬学科330名に卒業証書・学位記（学士）、大学院 薬科学専攻博士前期課程1名、薬学専攻博士課程10名に博士（薬学）及び課程によらない博士1名に博士（薬学）の学位記が修了者全員に赤路学長から授与されました。

式終了後13時から創立130周年記念館において、京薬会主催の「卒業記念祝賀会」が開催されました。職員をはじめご父母の皆様が、卒業生の新しい門出を祝いました。

また、これに併行して、躬行館食堂において、本年度卒業後30・50周年を迎えられた方々に加えて、コロナ禍で招待のできなかった平成2年度と昭和45年度卒業の方々との合同記念祝賀会が開催され、多数の方々が旧交を温めました。



■ 2025年度 入学宣誓式

2025年度入学宣誓式を、2025年4月1日（火）午前10時から創立130周年記念館で挙行了しました。2025年度新入生数は、薬学部薬学科395名、大学院 薬学研究科薬学専攻博士課程9名でした。

当日の学長の式辞は、本学Webサイト新着情報に掲載しています。



News 京薬会 だより

■ 卒業証書・学位記授与式及び卒業祝賀・京薬会歓迎会

3月15日（土）卒業式典が挙行されました。卒業証書・学位記授与された皆さんへ理事長、学長に続き、京薬会平松会長も祝辞を述べられました。式典の後130周年記念館にて、京薬会主催、教育後援会協賛恒例の祝賀会を開催しました。祝賀会では京薬会学生交流委員会で学生委員を務められた3名に会長から感謝状が贈呈され、新たに年次代議員に就任した2名の紹介もありました。

本祝賀会は、卒業された皆さんを正会員として迎える京薬会歓迎会も兼ねています。新卒業生は、お世話になったご家族や教職員、後輩の在校生そして卒後30年、50年の卒業生（コロナ禍で卒業式が挙行されなかった令和2年度に卒後30年、50年を迎えた会員も参加）とともに人生の新たな船出の記念となるひと時を過ごされ、大盛況裏に終了しました。

新卒業生にとっても周年記念の会員にとっても思い出のたくさん詰まった学び舎で、また心に残る1ページを刻まれたことでしょう。



採用

医療薬科学系薬剤学分野 准教授 前田 仁志
 生命薬科学系 細胞生物学分野 助教 祝迫 佑紀
 基礎科学系 一般教育分野 助教 野末 幸子
 統合薬科学研究施設
 バイオサイエンス研究センター 助手 中西 聡
 (以上2025. 4. 1～2030. 03. 31)
 薬学教育系教育研究総合センター
 臨床薬学教育研究センター 特命教授 石橋真理子
 薬学教育系教育研究総合センター
 臨床薬学教育研究センター 特命教授 織邊 聡
 薬学教育系教育研究総合センター
 臨床薬学教育研究センター 特命教授 和田 恭一
 (以上2025. 4. 1～2026. 3. 31)
 事務局研究・産学連携推進室 室長 加藤 浩
 事務局庶務課 主事 中西 弘樹
 (2025. 4. 1付)

昇任

生命薬科学系公衆衛生学分野 准教授 松本 崇宏
 (2025. 4. 1付)

任命

共同利用機器センター長 教授 古田 巧
 (2025. 4. 1～2027. 3. 31)
 情報処理教育研究センター長 教授 武上 茂彦
 学生実習支援センター長 教授 武上 茂彦
 (2025. 4. 1～2026. 3. 31)
 創薬科学系長 教授 大石 真也
 生命薬科学系長 教授 中山 祐治
 病態薬科学系長 教授 田中 智之
 医療薬科学系長 教授 異島 優
 基礎科学系長 教授 佐藤 毅
 (以上2025. 4. 1～2027. 3. 31)

再任用

創薬科学系薬化学分野 准教授 小林 祐輔
 生命薬科学系細胞生物学分野 講師 関根 勇一
 基礎科学系一般教育分野 講師 岩崎 大輔
 薬学教育系薬学教育研究センター 講師 開 章宏
 薬学教育系
 臨床薬学教育研究センター 講師 今西 孝至
 生命薬科学系衛生化学分野 助教 森戸 克弥
 病態薬科学系薬物治療学分野 助教 安田 浩之
 薬学教育系
 臨床薬学教育研究センター 助教 齊藤 洋平
 薬学教育系
 学生実習支援センター 助教 金瀬 薫
 (以上 任期：2025. 4. 1～2030. 3. 31)

配置換

薬学教育系
 学生実習支援センター 講師 石川 誠司
 (前 薬学教育系情報処理教育研究センター)
 薬学教育系
 臨床薬学教育研究センター 助教 齊藤 洋平
 (前 生命薬科学系生化学分野)
 事務局入試課 主事 奥村 亮
 (前 事務局庶務課)
 (2025. 4. 1付)

兼務解除

事務局情報管理推進室 室長 栗田 晃
 (兼) 事務局研究・産学連携推進室室長
 (2024. 09. 30付)

契約更新

事務局庶務課 契約専門職員 坂口 義美
 事務局研究・産学連携推進室 契約専門職員 武野 薫
 事務局実務・生涯教育課 契約専門職員 高島 一枝
 附属施設薬用植物園 契約専門職員 平井 隆子
 (2025. 4. 1付)

退職

薬学教育系
 情報処理教育研究センター 教授 藤原 洋一
 薬学教育系
 臨床薬学教育研究センター 講師 中村 暢彦
 薬学教育系
 臨床薬学教育研究センター 特命教授 澤崎 高志
 事務局施設課 主事 深田 祐輔
 (2025. 3. 31付)

—高度化・多様化するがん医療を担う人材育成— 次世代のがんプロフェッショナル養成プランについて

本学では「京都大学・三重大学・滋賀医科大学・大阪医科薬科大学」との連携事業として、文部科学省の補助事業として2023年度に採択された『次世代のがんプロフェッショナル養成プラン』を推進しています。本事業は2012年度より取り組んでおり、2012年度～2016年度は『がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン』、2017年度～2021年度は『多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン』として取り組んできました。

2023年度より推進している本事業について参加者の声とともに紹介させていただきます。

次世代のがんプロフェッショナル養成プラン
コーディネーター 村木 優一

Feature article.

概要

第4期がん対策推進基本計画の取り組むべき施策として人材育成の強化があげられており、大学院レベルにおけるがん専門医療人材を養成する教育プログラムを開発・実践する拠点形成を支援する目的で、2023年度から文部科学省の補助事業「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン」が実施されています。

本学は、京都大学を代表校として、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科薬科大学とともに京都大学を拠点として活動しています。



京都薬科大学大学院では2024年度から次世代のがんプロフェッショナル養成プランに対応する「がん患者のQOL向上および終末期医療を担う人材養成コース」「近未来の医薬品・治療法の開発を担う人材養成コース」という2つの正課コースを設置しており、これらのコースを選択した履修生が学んでいます。また、「新たな治療法の開発と薬物療法マネジメントに貢献する5大学連携薬剤師養成コース」という1年間のインテンシブコースを5大学共同で運営し、本学からも薬剤師として活躍中の履修生が、更に高度ながん医療に関する学術調査を自ら立案・実行し、エビデンスを構築することができるがんプロフェッショナル薬剤師を目指して参加しています。

京都大学を拠点として毎年、「5大学連携海外合同教育セミナー」「5大学連携学生短期研修プログラム」「5大学連携医療フォーラム」を開催することとしています。2024年度の「5大学連携海外合同教育セミナー」では、韓国のソウル大学病院（SNUH）に本学大学院生1名を含む、学生8名、引率者5名が訪問しました。韓国でトップレベルの高度な医療技術を誇るがん治療・研究施設であるSNUHを見学した後、両国の大学院生による研究発表とディスカッションが活発に行われ、2日間という短い期間ながら大変有意義な研修となりました。

■5大学連携学生短期研修プログラムについて

「5大学連携学生短期研修プログラム」では本学が当番校となって2日間の日程で開催しました。1日目は本学で講演会と履修生たちの研究交流フォーラムを実施、2日目は京都大学医学部附属病院でグループに分かれて実際の現場で研修・発表を行いました。1日目の講演会には京大拠点の履修生、本学の学部生、大学院生、教員も参加し、臨床腫瘍学分野中田准教授による難治性がんの新規治療薬創出をめざす研究者としての姿勢、経験や心構えとともに、現在取り組んでいる研究内容も発表いただき、参加した履修生からは質問が相次ぎました。また、小児がん経験者の方には、患者の思いや医療関係者への願いを語っていただきました。当時のことを思い出して感極まり言葉に詰まりながらも伝えてくださる言葉を、拝聴した全員が深く受け止め、広く医療に携わる人間として、それぞれの目標に向けて思いを新たにすることができました。

その後に開催された研究交流フォーラムでは、普段なかなか交流することのできない5大学の専門領域の異なる大学院生が互いの研究活動について意見を述べ合い交流することで、次世代のがんプロフェッショナル医療人として、多職種や領域横断的な連携ができる関係性の構築や気づき・発見の場となりました。



■参加した学生の声

生薬学分野 博士課程3年次生 うがわ こうた
鵜川 孔汰

私は、令和6年度に開催された2日間の5大学連携学生短期研修プログラムに参加しました。

1日目は、講演会および研究交流フォーラムが実施されました。フォーラムでは、がんプロ履修生が自身の研究内容と自己紹介をポスターにまとめて発表し、参加者同士で活発な意見交換を行いました。私の研究テーマに対しても、臨床での応用を意識した助言をいただき、また臨床経験豊富な先生方との交流を通して、基礎研究から臨床現場へ橋渡しをする視点を持つことの重要性を再認識しました。また、他の履修生の多種多様な研究を知ることができ、大変有意義な機会となりました。

2日目は、京都大学医学部附属病院にて施設内見学が実施され、薬剤部門や外来化学療法室を訪れました。実際に働かれている方々と話をし、薬剤師ががん治療薬だけでなく、周辺疾患に関連する治療薬の知識も求められていることを学びました。薬剤師には、多様な治療薬情報を的確に提供するジェネラリストとしての活躍が期待されており、今後は情報収集力と伝達力を一層高め、臨床現場で信頼される薬剤師を目指していきます。

今回の研修を通じて、研究や病院業務に真摯に取り組む方々と交流をしたことで強い刺激を受けました。私自身も、この経験を活かして、がん医療の進展に貢献できる人材を目指して努力してまいります。最後に、本研修を企画・運営してくださった先生方、並びに参加者の皆様に深く感謝申し上げます。

■最後に

その他にも本学では、生涯教育センターと共催した「公開講座」で広くがんに関する知識の普及に貢献し、国際交流推進センターと共催した「国際シンポジウム」で海外のがん研究者の先進的な研究に触れる機会を得て、高度化・多様化する医療を実践できる薬剤師の養成の一助としています。

次世代がんプロフェッショナル養成プランのコースを履修している学生以外の大学院生や学部生も参加できるセミナー等もありますので、興味がある方はぜひ参加してください。

2025年度試験日程については下表のとおりです。
スケジュールは変更となる可能性があります。最新情報はmanabaにてお知らせします。

試験	試験期間	受験手続日	合格発表	
2025年				
1～4,6年次生 前期試験	7月17日(木)～7月29日(火)	－	8月7日 (木) Webによる公開	前期終了時の 成績通知書は 10月下旬に保証人へ 送付予定
3～4年次生 前年次科目再試験	8月21日(木)～8月26日(火)	4月11日(金)～4月13日(日)	10月1日(水)～10月15日(水) Webによる公開	
6年次生 前期再試験Ⅰ	8月21日(木)～8月26日(火)	8月7日 (木) ～8月14日 (木)	9月9日(火) Webによる公開	
1～4年次生 前期科目再試験	8月28日(木)～9月4日(木)	8月7日 (木) ～8月14日 (木)	10月1日(水)～10月15日(水) Webによる公開	
6年次生 前期再試験Ⅱ	9月24日(水)・9月25日(木)	9月9日(火)～9月11日(木)	10月1日(水)～10月15日(水) Webによる公開	
4年次生 薬学共用試験 OSCE本試験	12月13日(土)・12月14日(日)	－	発表方法についてはmanabaで通知します	
2026年				
6年次生 アドバンスト薬学本試験	1月7日(水)・1月8日(木)	－	1月15日 (木) Webによる公開	後期終了時の 成績通知書は 4月中旬～下旬に 保証人へ送付予定
4年次生 後期試験	1月7日(水)～1月9日(金)	－	1月19日 (月) Webによる公開	
1～3年次生 後期試験	1月14日(水)～1月22日(木)	－	2月4日 (水) Webによる公開	
4年次生 薬学共用試験 CBT本試験	1月15日(木)・1月16日(金) ※教務課より指定のいずれか1日を受験	－	発表方法についてはmanabaで通知します	
6年次生 アドバンスト薬学再試験	1月26日(月)・1月27日(火)	1/15(木)～1/16(金)	卒業査定会終了後 2月10日(火)～ Webによる公開	後期終了時の 成績通知書は 4月中旬～下旬に 保証人へ送付予定
4年次生 後期科目再試験Ⅰ	1月29日(木)～2月2日(月)	1/19(月)～1/22(木)	2月12日(木) Webによる公開	
1～3年次生 後期科目再試験	2月18日(水)～2月27日(金) ※2/20を除く	2/4(水)～2/9(月)	進級査定会終了後 3月12日(木)～ Webによる公開	
4年次生 前期・後期科目再試験Ⅱ	2月18日(水)～2月27日(金) ※2/20を除く	【前期科目】 1/19 (月) ～1/22 (木) 【後期科目】 2/12 (木) ～2/15 (日)	進級査定会終了後 3月12日(木)～ Webによる公開	
4年次生 薬学共用試験 CBT追・再試験	3月4日(水)予定	発表・手続き方法についてはmanabaで通知します		
4年次生 薬学共用試験 OSCE追・再試験	3月6日(金)予定	発表・手続き方法についてはmanabaで通知します		

2024年度実践薬学コース 実習報告会

Report

教務課

2025年5月23日(金)に総合薬学研究B 実践薬学コースにおいて実施した実習の報告会を開催しました。実習に参加した地域・在宅医療ユニット3名・先端薬剤師ユニット5名の学生がT21講義室でポスター発表を行い、約40名の教員や在学生が参加しました。学生は自身の設定したテーマと、実習を行う中で得た考察について説明し、質疑応答や活発な議論が行われました。

地域・在宅医療ユニット「在宅医療研修アドバンストプログラム」(協力施設：渡辺西賀茂診療所、ゆう薬局)

地域医療や在宅医療に関わる薬剤師の活動を通して、多職種連携への理解や保険薬局におけるこれから求められる薬剤師像について学ぶ。患者に行われている薬物治療や医療に関わる薬剤師を通して学び得た内容や疑問について、卒業研究にまとめる。

先端薬剤師ユニット(実習施設：洛和会音羽病院)

様々な医療機関で活躍する薬剤師の実務・研究・教育活動に触れ、今後、リーダーとなる薬剤師はどうあるべきかについて学ぶ。患者に行われている薬物治療や医療に関わる薬剤師を通して学び得た内容や疑問について、卒業研究にまとめる。



◆2025年度アカデミックスキル基礎講座
＜基礎1＞症例報告の書き方

※2025年度新規開講※

薬歴や症例報告における文章の書き方の基本を学んだ後、実際に症例報告を作成して学んだスキルを実践します。フリー討論で具体的な相談も可能です。 ※薬剤師限定の講座です。

- * 日程：2025年 9月7日(日) 9:30～16:00
- * 場所：京都薬科大学愛学館3階A32講義室
- * 定員：対面100名
- * 参加費：3,500円（受講料3,000円、事務手数料500円）
- * 申込受付期間：2025年7月9日(水)～8月25日(月)
- * 認定単位：G24 3単位

プログラム		
09:30 ～10:30	文章の書き方 ＜講義＞	薬歴や症例報告における文章の書き方（PAP0等） について基本的なことを学ぶ
10:45 ～11:45	症例報告作成（1） ＜演習＞	模擬症例を用いて症例報告を作成する
11:45 ～12:45	昼休憩	
12:45 ～13:45	症例報告作成（2） ＜演習＞	作成した症例報告を用いてディスカッションし、 改善点に気付く
14:00 ～15:00	症例報告作成（3） ＜講義＞	症例の見つけ方、認定・専門薬剤師の資格取得に 必要な症例報告を学ぶ
15:00 ～16:00	相談会	教員と参加者間でのフリーディスカッション

◆2025年度臨床推論ステップアップ講座＜実践編＞

バイタルサイン収集やアセスメントの実技実習による手技習得に留まらず、測定結果をどう評価し、患者にどう活かすかを主眼においたプログラムです。 ※薬剤師限定の講座です。

- * 日時：2025年 9月28日(日) 10:00～16:30
- * 場所：京都薬科大学臨床薬学教育研究センター
- * 定員：対面20名
- * 参加費：10,500円
（受講料10,000円、事務手数料500円）
- * 申込受付期間：2025年3月12日(水)～9月15日(月)
- * 認定単位：G24 3.5単位

時間	プログラム
10:00 ～12:00	【Ⅰ】バイタルサイン情報収集スキル習得 i) ＜講義＞フィジカルアセスメントを薬剤師が行う意義を知ろう ・聴診器の正しい使用法の指導 ・簡易な医療機器の原理と使用法 （アネロイド血圧計、自動血圧計、パルスオキシメーター等） ii) ＜実技実習＞実際にバイタルサインを収集してみよう ・聴診器の使用 ・呼吸、脈拍、血圧、SpO2の測定 iii) ＜実技実習＞フィジコを触ってみよう ・正常時の音の聴取 ・呼吸器、心臓、腸音の疾患別解説を伴う聴取 ・瞳孔散大の確認
12:00 ～13:00	【ランチョンミーティング】（サンドイッチ、お茶） パルスオキシメーターから病態を把握してみよう
13:00 ～16:30	【Ⅱ】フィジカルアセスメントを活用した臨床推論 i) ＜講義＞症例検討を行うにあたっての基礎知識 ・診断の流れ、疾病の基礎 ・心電図の見方 ・胸部X線写真の見方 ii) 実際の診療風景を見てみよう（フィジコ使用） 症例①② iii) 動画で見る、在宅医療における実際～薬剤師の臨床推論～



■ 申込方法 生涯教育センターWebサイトよりお申込みください。
<https://skc.kyoto-phu.ac.jp/>

■ 問合せ先 京都薬科大学 事務局 実務・生涯教育課
* E-mail: s-center@mb.kyoto-phu.ac.jp
* TEL: 075-595-4677 * FAX: 075-595-4792



生涯教育センター
問い合わせフォーム



アカデミック
スキル基礎講座
申し込みページ



臨床推論ステップアッ
プ講座＜実践編＞
申し込みページ

■ 本学の学生および職員（※薬剤師免許有の方）は、無料で受講できます。
受講希望者は、実務・生涯教育課までメールにてご連絡ください。

在学中の自分が、将来の自分を映し出す

せきざわ みな
関沢 美奈



2017年 学部卒業
(代謝分析学分野)

PIYO LAB 個人事業主

皆さん、こんにちは。学生生活、楽しんでますか？
私にとって在学中の一番の思い出は、研究室で過ごした時間です。代謝分析学分野に所属し、「臓器の微量元素と肥満との関連性」について、ひとりで研究に取り組みました。自分で計画を立て、実験を行い、スライドを作って発表する。そんな日々になんか夢中になっていたのを覚えています。

学業、アルバイト、研究室の両立は大変でしたが、先輩や後輩と休憩室で雑談したり、カフェタイムを楽しんだりする時間がとても好きでした。マウス20匹を毎日世話していたことも、今では懐かしく、かけがえのない思い出です。

もしあの頃の自分に声をかけるとしたら、「遊びも大事だけど、勉強もちゃんとやってね！」って伝えたいですね（笑）

6年次生のとき、模試の結果に焦って、今の夫とスタバで夜遅くまで一緒に勉強したことも思い出深いエピソードです。

そんな私も今では、3人の子どもの育てながら、育児・家事・仕事に追われる毎日。けれど、大学で培った「自分で考え、やり抜く力」は、今の私の大きな土台になっています。

現在は、慢性的な不調を根本から整える体質改善コーチとして活動しながら、ヘルスケア起業家向けのマーケティング支援も行っています。YouTubeでは4.5万人の方にご覧いただき、本の執筆にも取り組んでいます。「スライド作るの上手だね」「説明がわかりやすい」といった言葉がきっかけで、ここまで活動の幅を広げてこれました。原点はやはり、京都薬科大学での研究活動にあります。

ちょっと変わった働き方かもしれませんが、起業家仲間と交流したり、自分のペースでマルチに活動できる今の働き方がとても気に入っています。

在学中の皆さんへ。

「自分は何をしているときにワクワクするのか？」「どんな時間が好きだったか？」そんな視点で日々を過ごすと、きっと未来の自分が少しずつ見えてくるはずです。

2025年度入学者選抜結果

Report

入試課

2025年度入学者選抜結果について、志願者数および合格者数は表の通りです。2025年度の志願者数は前年比309名増加し、2,323名となりました。

	募集人員	志願者数	合格者数	入学者数	実質倍率
学校推薦型選抜 (指定校制)	50名	48名	48名	48名	1.0
学校推薦型選抜 (一般公募制)	90名	256名	106名	106名	2.4
一般選抜 共通テスト利用前期	45名	710名	297名	74名	2.1
一般選抜 前期 (3教科型)	150名	879名	372名	137名	2.3
一般選抜 後期 (2教科型)	20名	414名	42名	30名	7.5
一般選抜 共通テスト利用後期	5名	16名	3名	0名	4.0

ともはら けいすけ
創薬科学系薬品製造学分野 講師 友原 啓介

『科学論文の英語用法百科
第1編 よく誤用される単語と表現』
グレン・パケット

京都大学学術出版会 (2004年)

私の趣味の一つは、英語表現の観察です。趣味が高じて、前任の九州大学では英語ライティングの授業を企画・担当しました。

自宅の最寄駅は、JR琵琶湖線の守山駅です。通勤には、新快速電車を利用しています。車内の自動英語放送についてですが、「～の次は～に停車」というアナウンスは“After leaving ～, we will be stopping at ～.”が基本形ようです。そして、野洲止まりの新快速電車の守山駅到着（つまり終点の一つ前）の場合には、“After leaving Moriyama, we will be arriving at Yasu.”と変化します。後者は、新快速電車の長い旅路を感じる粋な表現だなあ、と思い気に入っていました。ところが、2025年3月のダイヤ改正で、他と同じく stopping に変わってしまいました。ちょっと残念です。

さて、この本は、日本人の書いた英語論文を数多く（約2,000本）校正した経験のあるグレン・パケット博士によるもので、日本人の英作文においてよく見られる誤用表現が多数紹介されています。According to/all/both/compared/especially/just/such thatなどの

基本的なフレーズが全部で133登場します。アルファベット順に並んでいるので知りたい情報へのアクセスは容易です。それぞれについて、誤用の事例が場合分けされて示されていて、なぜ間違っているのか、どう伝わってしまうのか、そしてどう修正すべきかが多くの例文とともに丁寧に述べられています。

一例を紹介します。因果関係を説明するとき“because”と同じように使いがちな接続詞“since”について、「その第一義は、時間的なニュアンスを伝えるもの」であり、「直接的な因果関係を示そうとする場合には適さない」と説明されています。ノンネイティブスピーカーの誤解を的確に指摘して、ネイティブスピーカーが持っているであろう直感的な理解へと導いてくれます。私はこの本を片手に、細部の表現を精査しながら英語論文を仕上げていく時間がとても好きです。

本書は、よくあるテクニック本とは一線を画しており、精読して理解する必要があります。例文が物理学に偏っていて、私には理解が難しい場面も多いです。少々分かりにくい表現・言い回しもありますが、付録で英語版の原著が用意されていますのでこちらで確認可能です。シリーズ5部作とのことですが、シリーズ2を最後に続編が中々出版されません。楽しみに待っているところです。



事務局 実務・生涯教育課

なかむら しょうへい
中村 尚平

『うれしい悲鳴をあげてくれ』
いしわたり淳治

筑摩書房 (2014年)

このコーナーのお話をいただいた後に家の整理をしていた時、偶然この本が目前に現れて、これも何かの巡り合わせだと思いこちらの本を紹介させていただくことにしました。著者のいしわたり淳治は90年後半から2000年代にかけて活動していたバンド「SUPERCAR」で作詞担当をされていた方で、最近ではテレビ出演もされているのでご存知の方も多いかと思います。

（有名な曲だと、Superflyの「愛をこめて花束を」の作詞にも携わっていました。）

そんな著者が書き下ろした本書は、「すこし不思議

うれしい悲鳴を
あげてくれ



いしわたり淳治

筑摩文庫

議」を味わえる短編小説と、著者の独特な目線で描かれたエッセイが1冊にまとまっています。様々なエピソードが書かれていますが、私の好きな話は、どちらもエッセイの話ですが「浮き浮きウォッチング」と「数字の話」です。

「浮き浮きウォッチング」は、UF0が見えるという噂の都心近くの公園に立ち寄った際、本当にUF0を目撃(!)したところから話は始まります。著者曰く、そこにあるのに見えない、ということは人間にとってよくあることらしく、探し物が見つからないのも同じ理由だとか。つまり、UF0も本当はいつも空にいるのに、ただ見えていないだけ(!!)というUF0の目撃談かと思いきや、そこから著者の価値観について語られていきます。個人的には「SUPERCAR」らしさを感じられるエピソードで、お気に入りのエピソードです。

「数字の話」も前述のエピソードに似た雰囲気を感じました。「せかいでいちばん大きい数ってなに？」という子供の質問に頭を悩ませる著者。そもそも数字とは、言葉とは、宇宙とは、と思考は進んでいき、子供の小さな疑問から壮大なスケールにまで広がっていく様が面白いエピソードです。

「SUPERCAR」を知っている方はもちろん、知らない方でも楽しめる一冊になっていると思います。どの話も5分程度で読み終われますので、気になった方はぜひお気軽に手にとってみてください。

授業評価委員会

本学では学生自身が授業における学びの理解度を図るために、また教員が授業改善を行うために前期と後期の年2回、学生による授業評価を実施しています。授業評価の方法は「授業アンケート」としてFormsを利用して各講義科目の担当教員（専任教員及び非常勤講師）ごとに実施しています。

本アンケートの集計結果を受けて、学生の意見に対するフィードバックのために教員は「リフレクション・ペーパー」を作成しています。このリフレクション・ペーパーは大学のポータルサイト「manaba」に掲載して学生に公開し、また冊子体にして図書館で閲覧ができるようにしています。これによって今後の授業改善が積極的に進み、学生及び教員にとって有意義な授業が実施されることを期待しています。

2024年度授業評価の集計結果と解析結果の概要を以下の通り報告します。
「学生自身の授業で学ぶ態度」と、「教員の授業に関する項目」について別々に評価をしました。

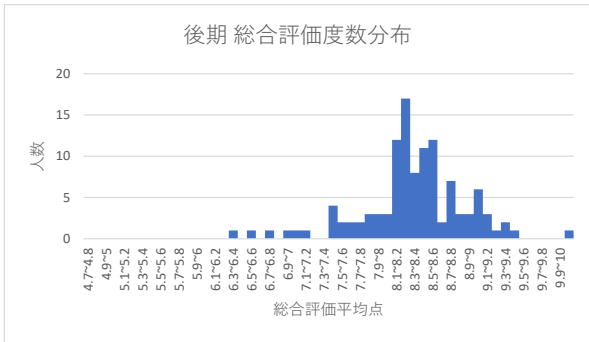
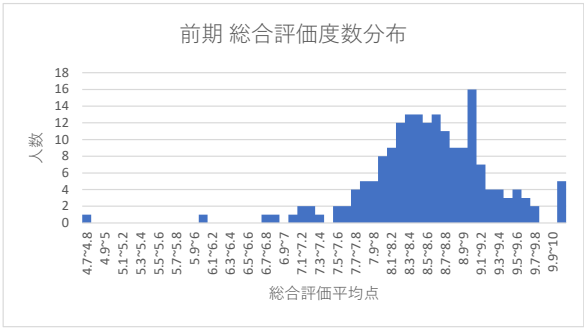
◇「学生自身の授業で学ぶ態度」

設問		前期評価	後期評価
Q1	予習・復習などの授業外学習を十分にに行い、この授業に対して意欲的に取り組んだ。	4.09	4.08
Q2	授業の到達目標を達成できた。	4.13	4.08
Q3	授業で学んだことを、他の授業の内容（今までに学んできたこと、他の科目など）と関連付けながら理解することができた。	4.21	4.15
Q4	授業で学んだことで興味・関心が高まり、これからもより深く学びたいと思った。	4.24	4.17

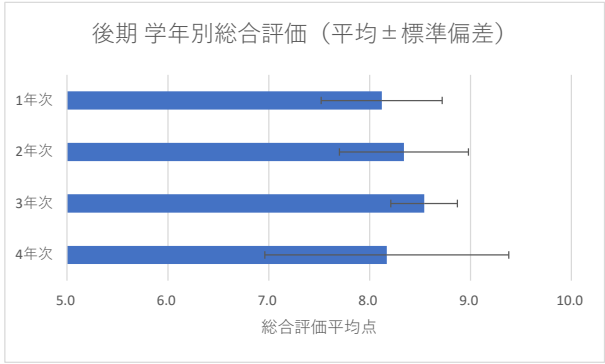
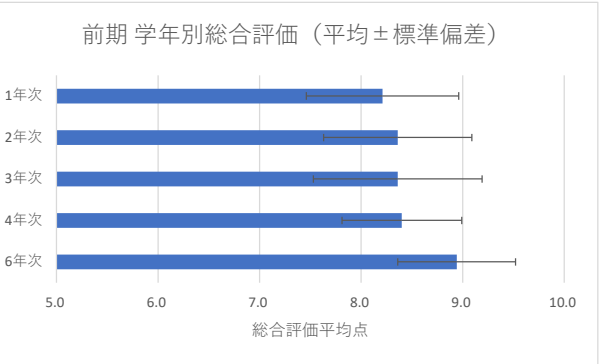
(5段階評価)

◇教員の授業に関する項目

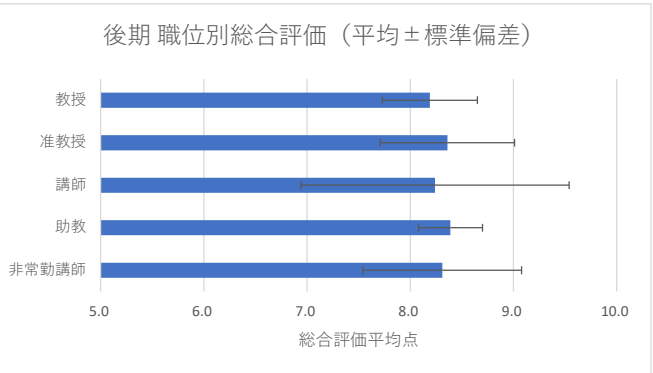
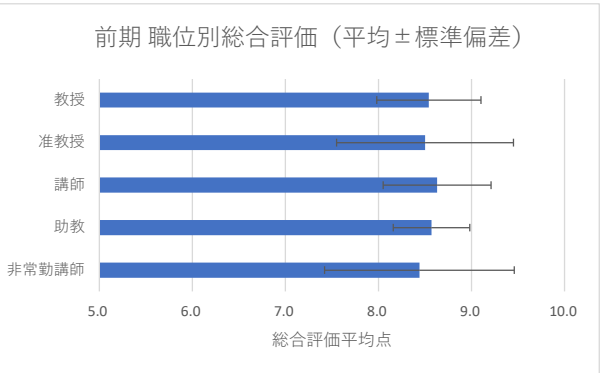
1) 総合評価の分布



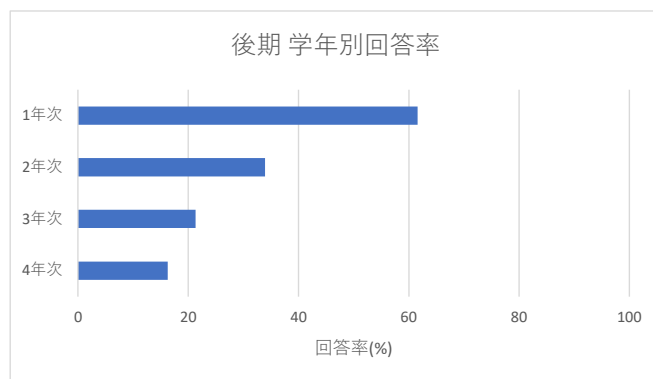
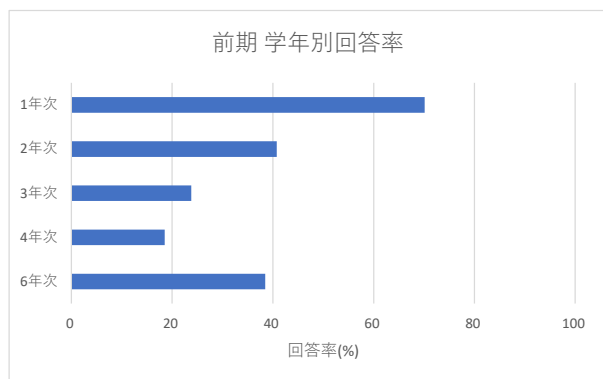
2) 学年別の総合評価平均点



3) 職位別の総合評価平均点



4) 学年別のアンケート回答率



最後に、授業アンケートに協力いただいた学生みなさんに感謝するとともに、今後の授業改善のために、アンケート回答率の更なる向上を目指します。授業アンケートは今後も継続して実施しますので、回答へのご協力をお願いします。

また、評価対象となった教員におかれましては、アンケート結果を参考にされ、更なる授業改善に役立てていただければ幸いです。



◇データベースを使ってみよう！

図 書 館

データベースとは、多様な分野の学習や研究に有用な大量のデータが分類、整理されたもので、キーワード検索することで必要な情報を入手できるサービスです。“京都薬科大学図書館”ホームページの“データベースで探す”(<https://www.kyoto-phu.ac.jp/library/database.html>) から目的に応じて利用できます。

たとえば、日本語の医学分野に関する文献を探したい時は“医中誌Web”、海外の文献を中心に検索したい時は世界最大級の医学文献データベース“PubMed”がオススメです。なお、“PubMed”は京都薬科大学専用入口(<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/?otool=ijpkphulib>) からアクセスすると、本学で契約する電子ジャーナルヘナビゲートするアイコンが表示されて、とても便利です。

また、就活の準備や業界・企業研究に役立つ情報を探したい時は、KPU_{NEWS} 221号でリニューアルについて紹介した“日経BP記事検索サービス”や国内最大級の新聞記事データベース“朝日新聞クロスサーチ”では、「就活応援」や「時事問題」など項目を選択するだけで読みたい記事を簡単に検索できます。

その他にも、研究に必要な文献を効率よく探し出せる引用文献データベース“Scopus”、病院の検査、診断、処方など臨床に直結する情報の一括検索が可能な“今日の診療”、化学をはじめ物質科学分野全般に対応した情報検索ツール“CAS SciFinder®”なども利用できます。

まだ使ったことがない方も、使ううちに検索のコツがわかり、情報を得ることがどんどん楽しくなってきます。新年度が始まってすこし落ち着いてきたこの時期にぜひデータベースに触れてみてください。

◇図書館の入退館方法が変わりました！

図書館ではこれまでの入館ゲートを撤去し、自動ドア（エントランス）にカードリーダーを新設、また、資料の無断持ち出しなどを防止するための装置であるBDS（ブックディテクションシステム）ゲートの入替を行いました。これに伴い、2025年3月21日以降、入館及び退館時は自動ドアのカードリーダーに学生証等をかざして認証する方式へ変更となりました。入館資格をチェックして利用者の安全を確保すること、また正確な統計取得のため、入館及び退館の際、複数人の場合や自動ドアが開いている場合でも、必ず一人ずつ学生証等をカードリーダーにかざす運用としています。

なお、学生証を忘れた方や学外の方は備え付けのインターフォンでお知らせいただくと、スタッフが対応します。新年度を迎え、まだ新しいシステムに慣れない様子も見受けられますが、来館時には必ず学生証等を携行のうえ、これからも図書館を安心・安全にご利用いただくため、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



図書館のBDSゲート

本学図書館の開館日程については本学公式Webサイトをご覧ください。

<https://www.kyoto-phu.ac.jp/library/>



1. 入学定員・募集人員

学部	学科	入学定員
薬学部	薬学科	360名

2. 募集人員・出願資格

	学校推薦型選抜		一般選抜			
	指定校制	一般公募制	共通テスト利用 前期	一般選抜前期 (3教科型)	一般選抜後期 (2教科型)	共通テスト利用 後期
募集人員	50名	90名	45名	150名	20名	5名
出願資格	高等学校長へ通知	2026年3月卒業見込者及び 2025年3月卒業者 ^{※1} で、学習 成績の状況3.2以上	2026年3月卒業見込者及び既卒者			

^{※1} 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を2025年3月に修了した者、及び2025年4月以降2026年3月末までに修了または修了見込の者を含む。

3. 選抜日程等

	学校推薦型選抜		一般選抜			
	指定校制	一般公募制	共通テスト利用 前期	一般選抜前期 (3教科型)	一般選抜後期 (2教科型)	共通テスト利用 後期
出願期間	2025年11月1日(土) ～ 2025年11月6日(木) 必着	2025年11月1日(土) ～ 2025年11月7日(金) 当日消印有効	2026年1月5日(月) ～2026年1月14日(水) 当日消印有効	2026年1月5日(月) ～2026年1月21日(水) 当日消印有効	2026年1月5日(月) ～2026年2月16日(月) 当日消印有効	2026年2月18日(水) ～2026年3月5日(木) 当日消印有効
試験日	2025年11月10日(月)	2025年11月15日(土)	2026年1月17日(土) 2026年1月18日(日)	2026年2月3日(火)	2026年2月20日(金)	2026年1月17日(土) 2026年1月18日(日)
合格発表日	2025年12月1日(月)		2026年2月13日(金)		2026年3月4日(水)	2026年3月13日(金)
入学手続 期限	2025年12月8日(月) 必着 入学金・授業料(前期分)納付期限 入学手続書類等提出期限		2026年2月20日(金) 入学金納付期限		2026年3月11日(水) 入学金納付期限	2026年3月19日(木) 入学金納付期限
	2026年3月19日(木) 必着 授業料(前期分)納付期限 入学手続書類等提出期限					

4. 検査・試験項目等

学校推薦型選抜 (指定校制)
面接・調査書を基に総合的に判定する。
試験場：京都薬科大学キャンパス

学校推薦型選抜 (一般公募制)	配点
適性検査Ⅰ：英語 (試験時間 60分)	100
英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ、論理・表現Ⅰ 論理・表現Ⅱ、論理・表現Ⅲ	
適性検査Ⅱ：化学 (試験時間 60分)	100
化学基礎、化学	
面接	40
調査書 国語と数学の学習成績の状況の合計×2	20
ただし、一定基準に達しない検査項目があれば、不合格になることがある。	
試験場：京都薬科大学キャンパス	

一般選抜 共通テスト利用前期			配点
数学	数学①(「数学Ⅰ、数学A」)、数学②(「数学Ⅱ、数学B、数学C」)	200	合計 710
外国語	英語(「リーディング」と「リスニング」)	200 ^{※2}	
国語	国語[近代以降の文章のみ]	110	
理科	化学[必須]、物理・生物から1科目[選択]	200	

^{※2} リーディングとリスニングの合計点を200点満点に換算し素点とする。(リーディング160点満点、リスニング40点満点)

一般選抜 前期（3教科型）			配点	試験時間
数学	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B(数列、統計的な推測)、数学C(ベクトル)	200	合計 600	90分
外国語	英語 英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ、英語コミュニケーションⅢ 論理・表現Ⅰ、論理・表現Ⅱ、論理・表現Ⅲ	200		90分
理科	化学基礎、化学	200		90分
試験場：（京都会場）京都薬科大学キャンパス （大阪会場）ホテルマイステイズ新大阪コンファレンスセンター、大阪国際交流センター				

一般選抜 後期（2教科型）				配点	試験時間
数学	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B(数列、統計的な推測)、数学C(ベクトル)		いずれか 2教科選択	100	合計 200 120分※3
外国語	英語	英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ、英語コミュニケーションⅢ 論理・表現Ⅰ、論理・表現Ⅱ、論理・表現Ⅲ		100	
理科	化学基礎、化学			100	
試験場：（京都会場）京都薬科大学キャンパス、（名古屋会場）TKP名古屋駅前カンファレンスセンター					

^{※3} 試験時間(120分間)内に3教科のうち、2教科を選択し解答する。

一般選抜 共通テスト利用後期			配点
数学	数学①(「数学Ⅰ、数学A」)、数学②(「数学Ⅱ、数学B、数学C」)	100 ^{※4}	合計 230
理科	化学	100	
調査書		15 ^{※5}	
志望理由書		15	

^{※4} 200点満点を100点満点に換算し素点とする。^{※5} 学習成績の状況×3(小数点以下第1位を四捨五入)を素点とする。

問合せ先：〒607-8414 京都府京都市山科区御陵中内町5 京都薬科大学 入試課
TEL (075)595-4678 / FAX (075)583-2232 / HP <https://www.kyoto-phu.ac.jp/>

2025年4月

		薬学専攻 博士課程(4年制)	備 考
募集人員		(一般入試、社会人入試) 10名	
募集分野等		(募集分野等) 23分野等	
出願資格	(1)6年制薬学部を卒業した者(2026年3月末日までに卒業見込者を含む) (2)大学(4年制学部)を卒業後、社会人として大学、官公庁、企業又は病院等において2年以上の実務・研究経験を有している者(本学における研究生を含む)で、(1)の者と同等以上の学力があると認めた者 (3)修士の学位を有する者(2026年3月末日までに当該学位取得見込者を含む) (4)外国において、学校教育における所定の課程を修了した者で、(1)の者と同等以上の学力があると認めた者 (5)外国において、修士の学位に相当する学位を有する者(2026年3月末日までに当該学位取得見込者を含む) (6)本学大学院において、個別の入学資格審査により、(1)から(5)の者と同等以上の学力があると認めた者 ※出願資格(2)、(4)、(6)の資格で出願を希望する者は、出願資格の認定審査を行う		<薬学専攻> 募集分野等 薬品製造学分野、薬品分析学分野、代謝分析学分野、衛生化学分野、微生物・感染制御学分野、細胞生物学分野、生化学分野、病態生理学分野、病態生化学分野、薬物治療学分野、薬理学分野、臨床腫瘍学分野、薬剤学分野、臨床薬学分野、臨床薬剤疫学分野、シナジーラボ、臨床薬学教育研究センター (協力分野等) 薬化学分野、薬品化学分野、生薬学分野、薬品物理化学分野、公衆衛生学分野、放射性同位元素研究センター
	主な出願書類	(1)入学願書 (2)成績証明書 ^{※1} (3)卒業論文及び卒業論文の要旨(英文可) ^{※2} (4)志願者名票・受験票 (5)卒業(見込)・修了(見込)証明書 ^{※1} (6)出願資格(4・5)の者は住民票 ^{※3}	※1 本学卒業見込者を除く ※2 卒業見込者は卒業研究の概要(2,000字以内)1部(英文可) ※3 学術交流協定大学の卒業(見込)者は大学長等の正式な推薦状で代用可能(任意)。その場合は、入学手続き時に住民票の提出を求める。
関係日程	出願期間	(夏季募集) 2025年7月 1日(火) ～ 2025年7月11日(金) [必着] (冬季募集) 2026年1月 7日(水) ～ 2026年1月14日(水) [必着]	
	試験日	(夏季募集) 2025年8月22日(金) (冬季募集) 2026年1月23日(金)	
	合格発表日	(夏季募集) 2025年8月28日(木) (冬季募集) 2026年1月26日(月)	
	入学手続期限	2026年3月5日(木) 入金納付期限 授業料前期分納付期限, 入学手続書類提出期限	
選考	面接試験	専攻に必要な研究能力について、卒業論文またはそれに相当する研究業績のプレゼンテーションを中心に行う。	

★出願に関する問い合わせ先
事務局入試課 〒607-8414 京都市山科区御陵中内町5 TEL075-595-4678

※最新の情報は本学公式Webサイトよりご確認をお願いします。
https://www.kyoto-phu.ac.jp/exam_information/



本学研究者の研究資金には、大学から配当される研究費のほか、国などから助成される公的研究費（私学助成金を含む。）、公益財団法人や企業からの研究助成寄付金、共同研究・受託研究契約に基づく企業からの研究費などがあります。

公的研究費は、文部科学省をはじめ厚生労働省、日本医療研究開発機構（AMED）などから助成されていますが、その中でも大きな割合を占めるのが、文部科学省所管の「科学研究費助成事業」（略して「科研費」）です。科研費の募集枠は金額によって分類されていて、個人で申請するものや複数の研究者で申請するものがあります。

また、1人の研究者があまり多くの枠に申請できないように制限も設けられています。

下表には代表者のみ記載し、分担者として共同研究をしている場合は含まれていません。令和7年度は、新規で31件申請して13件が採択されました（新規採択率41.9%）。合計採択件数は44件、令和7年度交付予定総額は92,560千円となっています。

なお、特別研究員奨励費は下表には記載していません。挑戦的研究（萌芽）の新規採択分及び研究スタート支援は現在申請中です。

研究種目	研究代表者	分野名	課題番号	研究課題名	交付額 (千円)	新規／継続
学術変革領域研究(B)	長尾 耕治郎	薬品物理化学分野	23H03857	膜脂質による細胞応答のしなやかさ制御	11,700	継続
基盤研究(B)	長尾 耕治郎	薬品物理化学分野	24K01685	リン脂質リモデリングを介した細胞環境変化への適応機構	4,160	継続
基盤研究(B)	古田 巧	薬化学分野	24K02158	カルコゲン結合による触媒構造制御法の確立と選択的分子変換への展開	3,640	継続
基盤研究(B)	異島 優	薬剤学分野	24K02201	各アルブミン相互作用タンパク質の特性を活用した革新的アルブミンDDSキャリアの開発	5,200	継続
基盤研究(B)	中山 祐治	生化学分野	24K02891	がん細胞に特徴的な細胞分裂におけるコレステロール生合成経路の意義解明	4,680	継続
基盤研究(B)	大石 真也	薬品化学分野	23K24010	鏡像型タンパク質の特性を活かした創薬スキフォールドの創製と応用	3,770	継続
基盤研究(B)	中村 誠宏	生薬学分野	23K27333	薬用植物由来酵素を活用した擬天然物の構築と膠芽腫治療薬開発への展開	4,030	継続
基盤研究(C)	河瀬 真治	薬物動態学分野	25K00288	膀胱癌予後予測マーカーとファーマコメト릭スに基づく化学療法の個別化	1,430	新規
基盤研究(C)	朝比奈 裕子	一般教育分野	25K08932	半合成受容体を用いたリガンド結合に伴う膜近傍部位の構造解析	2,080	新規
基盤研究(C)	南部 寿則	薬品製造学分野	25K09883	スピロシクロプロパンの環拡大反応を用いるシクロブタン骨格の新規構築法の開発	1,820	新規
基盤研究(C)	友原 啓介	薬品製造学分野	25K09905	触媒的アンモニア-Ugi反応の開発と非天然型ペプチドの自在合成	2,080	新規
基盤研究(C)	斎藤 博幸	薬品物理化学分野	25K09932	タンパク質の自己凝集・アミロイド線維化を促進する体内分子ネットワークの解明と制御	1,820	新規
基盤研究(C)	林 周作	薬物治療学分野	25K09991	未病遺伝子Warsの炎症性腸疾患における病態生理学的意義	1,690	新規
基盤研究(C)	安田 浩之	薬物治療学分野	25K10008	PAD2/PAD4を介するシトルリ化作用の消化管炎症における機能解析	1,430	新規
基盤研究(C)	松本 崇宏	公衆衛生学分野	25K10025	抗がん剤耐性化因子の核移行を制御できる天然由来医薬品シーズの創出	1,430	新規
基盤研究(C)	太田 智絵	生薬学分野	25K10040	植物酵素による非天然型化合物群構築とオートファジーをターゲットとした抗がん剤開発	1,820	新規
基盤研究(C)	細木 誠之	病態生理学分野	25K10057	気道上皮前駆細胞の細胞老化に対する超硫黄分子を標的とした革新的治療法の開発	1,170	新規
基盤研究(C)	前田 仁志	薬剤学分野	25K10068	リンパ節マクロファージのCD169を標的とした革新的がん免疫療法の開発	1,170	新規
基盤研究(C)	村木 優一	臨床薬剤疫学分野	25K10078	大規模保険請求情報を用いた薬剤耐性菌対策における新規指標の探索	1,950	新規
基盤研究(C)	飯居 宏美	臨床腫瘍学分野	25K10100	GGCT阻害剤と新規ミトコンドリア阻害薬を併用するがん幹細胞阻害戦略の確立	1,820	新規
基盤研究(C)	扇田 隆司	共同利用機器センター	24K09756	新規数理モデルを用いたパートナー分子によるαシヌクレイン凝集核形成制御機構の解明	1,560	継続
基盤研究(C)	武上 茂彦	薬品分析学分野	24K09770	多粒子結合イオン液体ナノ粒子-電気化学発光イムノアッセイの2成分同時測定法の開発	1,430	継続
基盤研究(C)	幸 龍三郎	生化学分野	24K09824	がん細胞分裂を支持する分子基盤の解明と治療応用の検討	1,820	継続
基盤研究(C)	伊藤 由佳子	薬物動態学分野	24K09972	血中循環腫瘍細胞の臨床実装による腫瘍集学的治療アルゴリズム構築	1,300	継続

基盤研究(C)	安井 裕之	代謝分析学分野	24K10044	がん間質部位占有能をもつ金-硫黄錯体をアジュバントにした白金系抗がん剤の作用増強	1,820	継続
基盤研究(C)	芦原 英司	病態生理学分野	24K11528	公共データベースを駆使したALLに対する標的分子探索とシーズ化合物発掘	1,430	継続
基盤研究(C)	小林 数也	薬品化学分野	23K06058	アルツハイマー病予防・治療への展開を指向した新規大環状BACE1阻害剤の開発	1,300	継続
基盤研究(C)	高山 健太郎	衛生化学分野	23K06059	マイオスタチンとアクチビンのデュアル阻害に基づく先端的な骨格筋増強ペプチドの創出	1,430	継続
基盤研究(C)	田中 智之	薬理学分野	23K06122	マスト細胞によるIL-10産生の制御機構およびその作用の解明	1,820	継続
基盤研究(C)	秋葉 聡	病態生化学分野	23K06157	高脂肪食負荷解除下での肝線維化修復促進を狙った1VA型PLA2の細胞種特異的制御	1,430	継続
基盤研究(C)	加藤 伸一	薬物治療学分野	23K06158	Ca2+高透過性TRPV6の腸上皮バリア機能制御における役割解明	1,950	継続
基盤研究(C)	河下 映里	病態生化学分野	23K06176	細胞外プロテアーゼ活性制御による新生児低酸素性虚血性脳症の神経再生療法の高効率化	1,560	継続
基盤研究(C)	米田 敏之	薬物動態学分野	23K06224	SGLT2阻害剤ダバグリフロジンの慢性心不全に対する有効性に関する研究	1,560	継続
基盤研究(C)	西口 工司	臨床薬学分野	23K06292	トリプルネガティブ乳癌におけるPARP阻害剤耐性化の克服を目指した新規機序の解明	1,170	継続
基盤研究(C)	戸田 侑紀	病態生理学分野	23K06620	肺前転移ニッチにおける乳酸アシドーシス発症因子の同定	1,040	継続
基盤研究(C)	中田 晋	臨床腫瘍学分野	23K06642	GGCT阻害によるNotch制御機構の解明と膠芽腫幹細胞を標的とする新規治療法の確立	1,430	継続
基盤研究(C)	田中 憲一	物理学分野	23K07118	BNCTの線量・線質の体内3次元分布の評価法—全身ファントム型蛍光体の開発—	650	継続
基盤研究(C)	岸野 良治	一般教育分野	22K00065	空海の遺志を継ぐ学僧たち:近世後期の「根本説一切有部律」宣揚運動	520	継続
基盤研究(C)	坂本 尚志	一般教育分野	22K00115	「最初のフーコー」の総合的研究—フランス国立図書館所蔵の未公開資料に基づく考察	520	継続
基盤研究(C)	長澤 一樹	衛生化学分野	22K06590	抗がん剤のうつ病誘発リスクに関する基礎的および薬剤疫学的検証	1,040	継続
若手研究	木口 裕貴	薬品分析学分野	24K18265	次世代診断薬の創出を支援するハイスループット高親和力変異抗体探索システムの開発	1,430	継続
若手研究	西藤 有希奈	代謝分析学分野	24K18273	亜鉛輸送体の発現と局在制御を介した効率的な亜鉛吸収機構の解明と応用展開	1,820	継続
若手研究	森戸 克弥	衛生化学分野	24K18292	リゾリン脂質メディエーター分解促進によるうつ病発症機構の解明と新薬開発への応用	1,430	継続
挑戦的研究(萌芽)	大石 真也	薬品化学分野	24K22415	鏡像型機能性タンパク質の医薬応用を目指した基盤技術の開発	2,210	継続

京都市立鏡山小学校で薬物乱用防止教室を開催

Report

企画・広報課

2025年5月19日（月）に京都市立鏡山小学校で6年生の児童を対象に薬物乱用防止教室を開催しました。薬品分析学分野の武上茂彦教授が「飲むときに気をつけたいこと（カフェインと飲み合わせ）」というテーマでクイズやグループワークを交えながら薬を正しく服用することの大切さを伝え、サポートとして参加した同分野所属の4年次生6名も子どもたちの質問に答えながら楽しく実験を行っていました。



詳細は本学公式Webサイトでも紹介しておりますので、ぜひご覧ください。

<https://www.kyoto-phu.ac.jp/news/detail.html?itemid=1563&dispmid=910&TabModule907=0>



■ 完璧主義的傾向について考える

「白か黒かはっきりしないとモヤモヤしてしんどくなる」「目標設定を高く置きがちなのでいつも不完全燃焼で後悔」「自分は常にちゃんとがんばれていない」等と思いがちな人はいませんか。いわゆる、「0か100か思考」「完璧主義」と呼ばれるような心理的在り方が強いとそのような考え方についてしまうようです。ただ、それは悪いことではなく、何かに取り組む際に、質や精度を高く仕上げようと努力をするので、色々なスキルがしっかりと身についたり、周囲からの良い評価を得られたりということにもつながります。学業面でも役に立つことが多いと思います。しかしながら、その傾向もあまりに強くなってしまうと、役に立つどころか、自分を強く苦しめてしまうものになってしまいます。

「〇〇までやれないとがんばったことにならない」「〇〇までどうせ自分にはできっこない」という思いが高じてしまうと、「〇〇できないくらいならもうやらないでいいや」という極端な思考と行動に変化してしまっ、そのような自分にも嫌気がさし、後悔して落ち込むという悪循環に入り込んでしまうことも少なくありません。

「こうあるべき、こうしなければいけない」という理想が絶対的価値を持ってしまうと、自分がそれとはズレてしまっていると感じるとき、その現状を直視して受け入れることは心理的にとても苦しいことであり、受け入れることが難しいものです。また、「〇〇までできなかった結果」について最悪の事態を想定し、不安になるあまり、その不安に押しつぶされそうになり、やるべきことに手がつかないという状態に陥ることもあります。

人によっては、そんな自分の状態と向き合うことの苦しさから一時的に逃れるために、ゲームやSNSに過度

にはまり込んでしまったり、お酒の力に頼ったり、自分を傷つけてしまうような行動をとってしまったりと、さらに自分自身を追い詰めてしまうような対処法をとってしまうこともあるでしょう。

完璧主義という言葉は広く使われていて、自分も当てはまると感じる人も少なくないと思いますが、その考え方や行動パターンのクセを変化させていくことは、実はなかなか大変なことです。例えば、スポーツと同じく練習が必要です。何かのスポーツを上達させようと思うと、我流のクセを見直して有効なフォームを身に着けるべく、何度も反復練習をし、頭と身体の両方を使ってしみこませて上達していくプロセスが必要です。それと同様に、思考や行動についても、変化を望むのであれば、それを促すための練習をしていく必要があります。

7月は試験期間です。たとえば、試験勉強への取り組みにおいて手につかなかったり、抱えきれないくらいに苦しく感じてしまったりというようなことがあれば、ぜひ学生相談室をご利用ください。

自分を心理的に苦しめている問題をすぐに解決することは難しいものですが、学生であるうちに、自分を見つめなおし、心理的成長に向けたさまざまな練習をしていくことは、長い一生を考えると意味のある事ではないかと思ひます。練習するのは自分自身なのですが、相談室カウンセラーは、練習方法を一緒に考えたり、くじけそうなきには励ましたり、できた時には一緒に喜んだり、いつも近くでサポートしていきます。

ご利用お待ちしております。

(臨床心理士 上野みな子)

■ 学生相談室のご案内

学生生活の中で問題や悩みに出くわしたとき、独りで抱え込むのではなく気軽に相談室をご利用ください。相談は臨床心理士・公認心理師の資格を持つカウンセラーが担当し、学業、進路、課外活動、将来、対人関係、性格、家族、心身の健康についてなど、事の大小に関わらず学生生活に関わる様々な悩みや問題について幅広い相談をお受けしています。学生ご本人だけでなく、保証人や教職員の方からの相談も可能です。

● 相談申込み・問合せ先

学生相談室 育心館4階

相談を希望される方は下記申し込みフォームまたはメールにて予約をお願いいたします。相談は無料です。なお、対面相談のほかに、オンライン相談（電話またはTeamsの音声通話）も実施しております。相談方法につきましてはカウンセラーにご相談下さい。その他詳細はお問合せ下さい。

- ・開室（受付）時間：月～金 8:45～17:15
- ・学生相談室メール：gakusou@mb.kyoto-phu.ac.jp
- ・電話：075-595-4672（建部） / 075-595-4686（上野）
- ・申込フォーム：<https://www.kyoto-phu.ac.jp/contact/support.html>



申し込みフォーム

■ シナジーラボの原田考輝さんが130回日本解剖学会／第102回日本生理学会／第98回日本薬理学会合同大会（APPW2025）においてGraduate Student Presentation Awardを受賞しました

2025年3月17日（月）～19日（水）に開催された130回日本解剖学会／第102回日本生理学会／第98回日本薬理学会合同大会（APPW2025）においてシナジーラボの原田考輝さんが、Graduate Student Presentation Awardを受賞しました。

受賞：シナジーラボ 博士課程3年次生 原田 考輝

演題：Identification of genes involved in abnormal differentiation into primitive macrophages derived from pluripotent stem cells established from a mouse model and a human individual with Down's syndrome

演者：原田 考輝¹、石原 慶一²、若山 清香³、若山 照彦^{3,4}、左合 治彦⁵、河下 映里²、秋葉 聡²、高田 和幸¹
 （¹京都薬科大・シナジーラボ、²京都薬科大・病態生化学分野、³山梨大・発生工学研究センター、⁴山梨大・生命環境学部、⁵国立成育医療研究センター・母体胎児・新生児・生殖医療センター）



■ 日本薬学会第145年会において、本学の学生19名が学生優秀発表賞を受賞しました

2025年3月26日（水）～29日（土）に開催された「日本薬学会第145年会」において、本学の学生19名が学生優秀発表賞を受賞しました。

【学生優秀発表賞（口頭発表の部）】

受賞者：細胞生物学分野 博士課程4年次生 祝迫 佑紀

演題：KSHVターミナーゼ複合体の機能解明

演者：祝迫佑紀¹、渡部匡史²、鈴木陽一³、中野隆³、藤室雅弘¹（¹京都薬大、²琉球大医、³大阪医薬大医）

受賞者：薬品物理化学分野 博士課程3年次生 南波 憲宏

演題：リン脂質組成による α -synucleinの脂質膜結合挙動の制御機構

演者：南波憲宏、有吉志千里、吉村典久、扇田隆司、大石真也、斎藤博幸

【学生優秀発表賞（ポスター発表の部）】

受賞者：薬物治療学分野 博士課程4年次生 山口 大貴

演題：細菌性肺炎に対する TokeOni を用いた新規近赤外発光 in vivo イメージング法の特性評価

演者：山口大貴、鴨志田剛、山田倫暉、森屋亮平、北田昇雄、牧昌次郎、八尋錦之助、加藤伸一

受賞者：臨床腫瘍学分野 5年次生 松村 麻生

演題：GGCT阻害剤とxCT阻害剤の併用は膠芽腫の増殖を相乗的に抑制しU87MG同所性移植マウスにおいて抗腫瘍効果を示す

演者：松村麻生、森昌也、曾根夕日、藤野瑛菜、野瀬梢、藤田貢、松本崇宏、飯居宏美、中田晋

受賞者：臨床腫瘍学分野 5年次生 曾根 夕日

演題：xCT阻害剤erastinとGGCT阻害剤pro-GAの併用はシステイン枯渇を介したフェロトーシスを誘導し相乗的に膠芽腫幹細胞の増殖を抑制する

演者：曾根夕日、森昌也、松村麻生、藤野瑛菜、野瀬梢、藤田貢、松本崇宏、飯居宏美、中田晋

受賞者：薬品化学分野 5年次生 苺坂 和佳奈

演題：環状デプシペプチドAmatyemide A及びBの全合成と構造決定

演者：苺坂和佳奈、鈴木力斗、George Neuhaus、Xinhui Yu、Kerry McPhail、大石真也

受賞者：薬用植物園 5年次生 野島 佳帆

演題：サンシュユの発芽特性と果実の品質に関する研究

演者：野島佳帆、北田明日香、西森菜織鹿、太田智絵、月岡淳子

受賞者：生薬学分野 5年次生 川竹 永伽

演 題：膠芽腫由来幹細胞に対する駆逐作用を有するオオバゲッキツ成分 karapinchamine A
およびその誘導体の合成研究

演 者：川竹永伽、市岡桜、太田智絵、月岡淳子、中村誠宏

受賞者：生化学分野 4年次生 池山 歩花

演 題：細胞分裂の形態変化に対するEphexin1の寄与

演 者：池山歩花、幸龍三郎、齊藤洋平、中山祐治

受賞者：臨床薬学教育研究センター 5年次生 小室 多香子

演 題：KEYNOTE-355試験に基づいた日本人被験者集団におけるPD-L1陽性トリプルネガティブ乳がん
に対するペムブロリズマブの費用対効果研究

演 者：小室多香子、地寄悠吾、中村暢彦、北田徳昭

受賞者：生薬学分野 5年次生 原 みなみ

演 題：生細胞イメージングシステムを利用した細胞毒性を有する生薬川骨由来成分によるがん細胞の
形態変化観察

演 者：原みなみ、太田智絵、齊藤洋平、幸龍三郎、中山祐治、中村誠宏

受賞者：生薬学分野 5年次生 金子 萌恵

演 題：生細胞イメージングシステムを用いたオオバンガジュツ由来成分panduratin Aの膠芽腫細胞に
対する抗がん作用の作用機序解明研究

演 者：金子萌恵、的場秋嘉、太田智絵、萬谷里奈、矢川寛菜、中村誠宏

受賞者：細胞生物学分野 博士課程4年次生 山田 倫暉

演 題：二成分制御系 PmrAB を介した *Acinetobacter baumannii* のコリスチン耐性には
phosphoethanolamine 修飾が重要である

演 者：山田倫暉¹、鴨志田剛²、白石宗³、上岡祿¹、八橋乃愛¹、和久奈樹¹、横田伸一³、八尋錦之助¹
(¹京都薬大、²明治薬大、³札幌医大)

受賞者：シナジーラボ 博士課程1年次生 吉川 勇人

演 題：A β 結合化合物plantainoside Bの脳移行性の解析とA β 凝集抑制ならびに神経保護作用を有する
機能性類似化合物の探索

演 者：吉川勇人¹、田中 雪衣¹、吉田依未¹、河嶋 秀和²、松本崇宏³、高田 和幸¹
(¹京都薬大・シナジーラボ、²京都薬大 放射性同位元素研究センター、³京都薬大・公衆衛生学分野)

受賞者：生化学分野 5年次生 石村 真結子

演 題：コンデンシンI制御サブユニットNCAPD2の分裂期におけるリン酸化解析

演 者：石村真結子、幸龍三郎、齊藤洋平、中山祐治

受賞者：生化学分野 5年次生 川路 彩夏

演 題：紡錘体形成チェックポイントにおけるOSBPL11の機能解析

演 者：川路彩夏、幸龍三郎、齊藤洋平、中山祐治

受賞者：代謝分析学分野 5年次生 田中 万美子

演 題：固相合成法を利用したアリールボロン酸前駆体の合成およびワンポット放射性ヨウ素標識法への応用

演 者：田中万美子、近藤悠斗、木村寛之、服部恭尚、河嶋秀和、高橋和弘、安井裕之

受賞者：薬化学分野 5年次生 大霜 彩乃

演 題：分子内カルコゲン結合を形成するニトロキシラジカルの合成及び触媒活性評価と不斉酸化への展開

演 者：大霜彩乃、松田彩花、古賀貴裕、阪本圭織、小林祐輔、古田巧、浜田翔平

受賞者：薬品物理化学分野 5年次生 南 尚

演 題：パーキンソン病変異 α シヌクレインのアミロイド線維形成に及ぼすヘパリン共存の影響

演 者：南尚、南波憲宏、扇田隆司、斎藤博幸

※学年は受賞当時

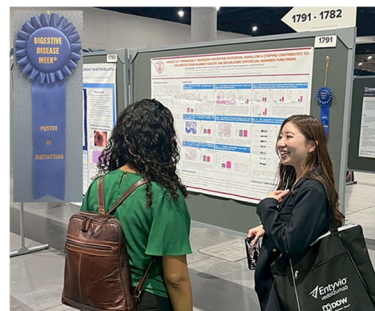
■薬物治療学分野の村山有希さんがDigestive Disease Week (DDW2025)において、Poster of Distinctionに選ばれました

5月2日（金）～5月6日（火）に開催されたDigestive Disease Week (DDW2025)において、薬物治療学分野の村山有希さんがPoster of Distinctionに選ばれました。

受賞：薬物治療学分野 博士課程3年次生 村山 有希

演題：Highly Calcium-permeable Transient Receptor Potential Vanilloid 6 (TRPV6) Contributes To The Protection Against Colitis Via Regulating Epithelial Barrier Functions

演者：Yuki Murayama, Shusaku Hayashi, Hiroyuki Yasuda, Michiko Saito, Kenjiro Matsumoto, and Shinichi Kato



■薬理学分野 田中智之教授が共催したシンポジウムについてNHKニュースで放映されました

薬理学分野 田中智之教授と大阪大学 中村征樹教授が共催したシンポジウムについて、2025年2月11日にNHKニュースで放映され、NHK WEBに掲載されました。

掲載記事は以下URLよりご覧ください。

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20250211/k10014719411000.html>

■薬理学分野 田中智之教授の取材記事が朝日新聞に掲載されました

薬理学分野 田中智之教授の取材記事について、朝日新聞（2025年3月7日）に掲載されました。



■生薬学分野 中村誠宏教授と薬用植物園 月岡淳子助教の取材記事が京のみどりに掲載されました

生薬学分野 中村誠宏教授と薬用植物園 月岡淳子助教の取材記事について、公益財団法人京都市都市緑化協会の広報誌「京のみどり」2025年春 114号に掲載されました。

薬用植物としてのボタンやシャクヤクのことや薬用植物園開園100周年について記載されています。

掲載記事は以下URLよりご覧ください。

<https://www.kyoto-ga.jp/greenery/kyonomidori/digibook/114/#3>

掲載記事については本学公式Webサイトよりご覧ください。

<https://www.kyoto-phu.ac.jp/compendium/paragraph/>



下記の方々からご寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

＊ 敬称略、芳名のみ掲載しております。

＊ 100万円以上を頂いた方は、愛学館エントランス『京都薬科大学 高額寄附者顕彰銘板』にも掲載させていただきます。

2025年3月～2025年5月にご寄附をお寄せいただいた方々

＜ 卒業生・同期会等（五十音順）＞

安藤 謙治
糸井 朋子
伊藤 隆之
大原 松雄
片岡 幸八
越川 喜敏
小山 泰子
坂本 智美

坂本美智恵
佐々木和子
鈴木 薫
高越 清昭
高美 時郎
武田 忍
中尾 敬子
中森 省吾

西田 惠藏
西本 佳夫
花原希代子
藤井 敏弘
藤岡 信子
三谷 高徹
森 一二美

＜ 企業・団体・一般（五十音順）＞

株式会社スギ薬局

＜ 法人役員・評議員・職員等（五十音順）＞

大崎 祥子（理事）

高田 眞介（課長）

（2025年5月31日現在）

■ ご寄付のお願い

本学では皆様からのご寄付で様々な支援を行っています。

引き続き温かいご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

詳細は本学公式Webサイトよりご覧ください。 <https://www.kyoto-phu.ac.jp/compendium/contribution/>



KPUnews No. 222

2025年7月発行／編集：KPUnews編集委員会

発行：京都薬科大学 〒607-8414 京都府京都市山科区御陵中内町5 ☎075-595-4691（企画・広報課）

※本誌掲載の文章及び写真の無断転載を禁じます。